

II-A-9

脳血管障害に伴う精神・神経症状に対する オースギ加味帰脾湯の臨床効果

長野県厚生農業協同組合連合会 リハビリテーションセンター鹿教湯病院 神経内科
○泉 従道, 丸山哲弘, 大木弘行

【目的】 加味帰脾湯は心脾両虚に肝火上炎が加わった病態に用いられる処方であり、不眠症、精神不安、神経症に対して適応がある。今回我々は、脳血管障害に伴う精神・神経症状に対して、加味帰脾湯を投与し、その臨床効果を検討したので報告する。

【方法】 対象は、何らかの精神・神経症状をもつ脳血管障害患者28例（男性16例、女性12例）とした。脳梗塞17例、脳出血9例、脳梗塞・脳出血1例、くも膜下出血1例であった。方法は、オースギ加味帰脾湯エキスGを、1回4.0gを1日3回、8週間ないし12週間経口投与し、漢方医学的症状として心血虚、脾気虚、脾不統血、肝火上炎、神経学的症状として知能検査、精神機能、神経所見、日常生活動作の障害の各項目につきスコア化し、投与前、投与4、8、12週後に治療効果を判定した。

【結果】 投与4、8、12週後のいずれかの時期に、漢方医学的症状では、心血虚の不眠、健忘、不安感に、脾気虚の疲労倦怠、食欲不振に、肝火上炎のいらいら・易怒、のぼせ・ほてり、頭痛、口渇に有意な改善が見られたが、心血虚の顔色不良、動悸、めまい感、脾気虚の腹満、軟便・下痢、脾不統血にはいずれの時期にも有意な改善は見られなかった。心血虚全般、脾気虚全般、肝火上炎全般では、いずれの時期にも有意な改善が見られた。神経学的症状では、知能検査（MMS）、精神機能（意識障害、抑鬱気分、意欲低下、注意障害）、神経所見（運動麻痺、感覚障害、構音障害、失語症、排尿障害）にはいずれの時期にも有意な改善は見られなかった。日常生活動作の障害では4、8週後に有意な改善が見られた。

【考察】 脳血管障害患者では、各種の精神・神経症状を呈する。今回の結果では、加味帰脾湯の投与により、神経症状には改善は見られなかったが、不眠、健忘、不安感、いらいら・易怒、頭痛等の精神症状には改善が見られた。したがって、加味帰脾湯は脳血管障害患者の各種の精神症状に対して有効である可能性が示された。

【結論】 脳血管障害に伴う各種の精神症状に対して、オースギ加味帰脾湯の投与が有効である可能性が示された。